



楽しんでもらえる作品を届けたい

たかざ れい
高城 玲さん



漫画雑誌「月刊ミステリーボニータ」で、15世紀末のミラノ公国を舞台に描かれる人体解剖ロマン『アナトミア』を連載中の市出身の漫画家・高城玲さん。第1話が掲載された2022年9月号の読者アンケートのランキングで新人ながらも2位に入り、3月16日(木)には単行本が発売されるなど、早くも話題を呼んでいます。「ファンの皆さまがSNSで作品の感想をつぶやいたり、盛り上がりつつあります。作品について「人の持つ底のつかない感情をリアルに描いています。登場人物のセリフにもこだわっているの、読んだ皆さまの心に残るとうれいです」と見どころを話します。

高城さんは小学生の頃から趣味で漫画を描き始め、中学生になると年3本を目標に漫画雑誌に自作の漫画を投稿します。そしてついに、高校2年生の時、初めて入賞します。「努力賞のようなささやかな賞ではありましたが、本当にうれしかったです」とその感動が忘れられず、大学生になっても漫画を描き続け、大学4年生の時、就職活動の末に地元企業に内定をもらうも、「やっぱり漫画を描きたい」と漫画家になる道を選びます。初めは、アル



「アナトミアー解剖してわかったことだが、人間は必ず死ぬようにできている」 発行/秋田書店

バイトをしながら漫画家のアシスタントとして、背景作画やベタ・トーン仕上げ作業などを手伝います。「アシスタントをするまでは、自分の原稿は紙で作っていたので、デジタルでの原稿の作り方を二から学ぶことができました」と技術を磨いた高城さんは、2021年に開催された第11回ロイヤル少女まんが賞で見事ボニータ賞に輝き、「月刊ミステリーボニータ」2022年1月号に読み切り漫画が掲載され、漫画家デビューを果たします。

「漫画は、作者の考えていることを純度100パーセントでお届けできるのが魅力」と笑顔を見せる高城さん。今後について「連載中の『アナトミア』を最後までしっかり完結させられるよう、走り切りたいです。ルネサンスの話なので翻訳出版して、本場イタリアの方からの反応も聞きたい」と目を輝かせます。なぜ、レオナルド・ダ・ヴィンチはモナリザを描くことになったのか。高城さんならではの新鮮解釈で、壮大なストーリーが描かれます。

cover

石ヶ瀬児童老人福祉センターに開設したeスポーツルームで楽しむ方を撮影しました。eスポーツルームは、毎日一般開放しています。ぜひ、eスポーツルームに足を運んでみてください。

